

# やまなしの福祉

9 No.319  
2014  
月号

特集

## 地域における 子育て支援 ~連携の大切さ~

- P2 「おやラボ」プロジェクト
- P4 関東ブロック保育研究大会
- P8 子育て応援カードを活用しよう
- P10 和成保育園放課後児童クラブ
- P11 市町村社協の子育て支援  
大月市・上野原市社協の取り組み
- P12 シルバー作品展・俳句大会
- P15 福祉用具紹介



# 地域と連携して 子どもにとってより良い環境を 「おやラボ」 プロジェクト



「おやラボ」のメンバーの皆さん  
(左から小松恵さん、甲斐江美さん、宮下なつこさん)

「山梨県障害児者家族会ネットワーク(代表 甲斐江美さん)」が中心になって「おやラボ」と名付けたプロジェクトがスタートしました。

「子どもの発達に不安があるけど相談先がわからない」「障害を受け入れられない」などの思いを抱えた家族に寄り添い、「おやラボ」がつなぎ役となって行政や学校など地域のさまざまな団体・組織と連携し、子どもにとってより良い環境を整えていこうとしています。

「おやラボ」について、メンバーの方々にお聞きしました。



親子で楽しむ「楽つみき」のイベント

## おやラボの仲間たち

- ★ピアコミュニティ nukunuku
- ★ジョリークラブ 支援が必要な子どもたちの家族会
- ★視覚障がい児サポート らんどまーく
- ★母子グループ 自由人
- ★甲府市の障害児支援を考える会 ぽぽ
- ★筋疾患児親の会ゆめみらい  
(日本筋ジストロフィー協会山梨支部部会)
- ★甲府健康友の会 すまいる班
- ★芝草の会(日本ダウン症協会山梨県支部)

## プロジェクトのきっかけ

昨年3月に視覚障害や発達障害、ダウン症などの8つの福祉団体が情報交換をしようと集まりました。この時点では、名前も代表者も決まっておらず、ただペアレント・メンター(※1)、ピアサポーター(※2)について、障害児を持つ親としての学びを高めようとの強い思いがありました。

まず何か動こうということになって、東日本大震災のドキュメンタリー映画(「生命のことづけー死亡率2倍 障害のある人たちの3・11」)の上映会を計画しま

した。ノウハウもない中、8団体それぞれのベースを持ち寄り、甲府市などにも働きかけて昨年9月の上映にこぎつけました。

## 子育て情報誌を発行

次は、子育て情報誌の発行です。これもノウハウはありませんでしたが、デザインも印刷もみんなで作りました。情報誌に名前を付ける際、障害児に関わる人だけではなく、誰にでも手にとってもらえるように広く子育て支援を捉えて「親」という基本の形がいいのでは、と話し合い「おやラボ」と名付けました。「ラボ」は「ラボラトリー(研究室)」の略。親として一緒に学んでいきたい、という思いです。情報誌は好評で、増刷をして計1,000部発行しました。次号は秋をめざして準備を進めています。





## より多くの方の参加を

7月に「おやラボ」のメンバーである芝草の会が「ピアサポーター研修会」を開きましたが、同会の会員以外の方からの反響も大きかったです。これまでも個々の団体が実施した良い事業があったのですが、情報が共有されていなかったり「行っていいのかな」と思われたりして、なかなか会員以外の参加が進みませんでした。

でも「おやラボ」ということで、会と会との隔たりをなくし、参加しやすくなりました。行政からも、学校の先生からも参加したいという方がいます。私たちも来てほしいです。一緒に勉強することで、伝聞ではない共通理解ができることは大切です。

ただ、イベントや勉強会の開催日や時間は、私たち、お母さんの家事や子どもの送り迎えの時間を考慮して、平日の午前10時から午後3時くらいの時間帯で行っているため、参加できない

方がいます。今後の課題としては、土日開催のイベントも実施して、お父さんや行政、学校関係者の方も参加しやすいようにしたいです。



## 地域との連携

行政や学校など地域の人たちと連携して、子どものいる環境、親子を取り巻く環境を良くしたい、という思いです。市民として親としての目線で、住みやすい社会にしたいと考えています。「おやラボ」メンバーの8割が県外出身者ですが、山梨はすごく子育てに向いている地域だと思います。「障害のある子が過ごしやすい場所は、ほかの子にとっても過ごしやすい場所になる」と言ってくださる先生がいます。周囲のお子さんも優しく育てています。やがて子どもたちが成長した時、優しい社会になるのではないのでしょうか。



会員以外も参加した第3回勉強会

## 今後は“ゆるい形”の勉強会も

「おやラボ」について、多くの問い合わせをいただいています。ただ、各団体のイベントに参加するにはハードルが高いという親への受け皿が必要と考えています。茶話会のようなゆるい形でできたら、と思います。

障害児の親というだけでも、できることはあります。「大丈夫よ」と言うのも、同じ立場で言えばわかってもらえたと思えます。同時に私たちは経験とともに、研修などに参加することで技術も身につけています。乳幼児健診などで親子とのかかわりをもてたらいいなあとと思います。

甲府市が策定を進めている次期の障害者福祉計画への意見を求められています。計画の策定により良い提案ができればと考えています。



「おやラボ」への問い合わせはフェイスブックまたはメールで

★フェイスブック…………… <http://www.facebook.com/yamanashi.kazokukai>

★メール…………… [infoycfa@gmail.com](mailto:infoycfa@gmail.com)

※1

### ペアレント・メンター

「メンター」には信頼できる相談相手という意味があります。「ペアレント・メンター」とは、実際に障害のある子どもを育てている親が、子育てに悩む親の相談相手となることです。これまでの子育て経験から、対等な立場でともに考え、共感することを大切にしています。

※2

### ピアサポーター

ピアとは「仲間」という意味です。「ピアサポート」は、同じような悩みや病気などを体験した人やその家族などが仲間（ピア）として「体験を共有し、共に考える」ことで、その人や家族を支援することです。ピアサポートを行う人を、「ピアサポーター」といいます。





山梨から富士を越え  
未来へはばたく子どもたち

## 甲府で関東ブロック 保育研究大会を開催

第55回関東ブロック保育研究大会が7月10日、11日の2日間、山梨県社会福祉協議会、山梨県保育協議会などの主催により甲府市内で開催されました。「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」を主題に、保育関係者約1200人が参加しました。

初日はコラニー文化ホールで全体会が開かれ、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課課長補佐 田野剛さんが、来年4月から実施予定の「子ども・子育て支援新制度」を紹介したほか、読売新聞東京本社社会保障部次長 榊原智子さんによる「人口減における子育て支援と保育」と題した基調講演が行われました。2日目は甲府市内のホテルや県立図書館などを会場に、9つの分科会が開かれました。





## ～第6分科会の発表から～

# 地域社会と手を携えた 保育園であるために

第6分科会は、「子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク」をテーマに開かれました。静岡県の保育園は「地域社会と手を携えた保育園であるために」と題し、地域社会のネットワークの一員としての保育園の役割の重要性について発表しました。発表の中で「地域とのつながり」として、地区社協との取り組みについて取りあげていますので紹介します。

**発表者** 静岡県静岡市

千代田保育園 園長 望月 いづみ(もちづき いづみ)さん(右)  
小百合キンダーホーム 園長 斉藤 裕子(さいとう ゆうこ)さん(左)

## 地域とのつながり

### ① 地区社協とのつながり

地区の社会福祉協議会と協力して、子どもたちが一人暮らしのお年寄りとお触れ合う中で、思いやりの心を育み、合わせて地域の人たちとの交流を深める

### ② 取り組み

- ★民生委員・児童委員と協力し、一人暮らしのお年寄りを保育園に招待する
- ★5歳児が案内役となり、お年寄りとお話しをする
- ★3～5歳児による出し物・プレゼント
- ★一緒に食事をする

### ③ 効果・考察

地区社協と連携して行う取り組みで、普段はあまり会話する機会のない一人暮らしの高齢者と子どもたちが触れ合うことにより、高齢者には元気を届け、子どもは喜んでもらえる楽しさを体感することができた。こうした取り組みは、自分の周りにはいろいろな人がいて、その中で生活していることを小さい時から自然と理解できる良い機会だと思う。

## 子どもと高齢者のふれあいの場づくりは 地域のつながりに大切

「地域とのつながり」を意識した取り組みについて、興味深く聴きました。「地区社協とのつながり」のところの一人暮らしのお年寄りとお触れ合う取り組みの発表で、女の子がお年寄りに抱きつきながら笑顔を見せる写真がありましたが、すごくほほえましい光景だなと感じました。

こうした高齢者と子どものふれあいの機会を設けることは、地域とのつながりにとって大切なことです。

※全体コメントから抜粋しました。

帝京学園短大准教授 里見 達也(さとみ たつや)さん

### 助言者 コメント





# すべての子育て家庭のため、 身近な市町村を中心とした取り組み



急速な少子化、人口減少社会が進む中で、共働き世帯やひとり親家庭の増加などを背景に、支援を必要とする子どもたちや子育て家庭が増加しています。一方で、質の高い幼児期の教育・保育への要望、人間関係の希薄化による地域の見守りや子育て支援機能の低下、都市部を中心とした待機児童の増加、子どもの減少で近くに保育の場がなくなるなどの課題も指摘されています。

こうした課題の解決には、行政や関係機関、そして民間の団体など地域のネットワークの重要性が増し

ています。山梨県内でも、行政はもちろん多くの民間団体が連携して子育て支援への取り組みを進めています(大月市及び上野原市の各社会福祉協議会の取り組みを本誌11ページに紹介)。

平成27年4月からは、市町村が事業主体となる「子ども・子育て支援新制度」がスタートする予定です。また山梨県も新制度開始から5年間を計画期間とする「やまなし子ども・子育て支援プラン(新計画・仮称)」の策定を進めています。子育てをめぐる環境は大きく変わろうとしています。

## 子ども・子育て支援新制度

子育て支援充実を図るため、平成27年4月から導入予定の制度です。地域の実情に合った保育・教育サービスの提供をめざします。国と都道府県が制度面、財政面などを支援して、市町村が事業主体になります。教育(幼稚園)と保育(保育所)の機能を一体的に行う認定こども園の普及や、放課後児童クラブの対象年齢拡大などの多様な事業を展開します。このため、山梨県内の各市町村では、地域の教育・保育、子育て支援のニーズの把握や、これに対応した事業計画の策定に取り組んでいます。

詳しくは内閣府ホームページ <http://www.cao.go.jp/>



# 「子育て支援」の意識を強く持ちます!

## 県の「子育て支援課」がスタート

山梨県福祉保健部の「児童家庭課」が今年4月、「子育て支援課」となりました。来年4月スタート予定の「子ども・子育て支援新制度」に合わせるとともに、「職員全員で子育て支援の意識をより一層強く持って業務に当たろう」というものです。民間によるさまざまな子育て支援も行われています(本誌P10~11に掲載)。県の子育て支援課も県民の子育てを支援するため、市町村や関係機関と協力して施策を展開しています。子育て家庭に身近な事業例を紹介します。



### 《子育てハンドブック》

出産や育児に対する不安や悩みを解消するため、子育てに関するさまざまな情報を提供することを目的に制作し、市町村などを通じて妊婦さんに配布しています。妊娠から出産、子育てまでの基本的な知識や相談窓口などの行政情報に加えてワンポイントアドバイスや応急手当、気になる疑問など、きめ細かい情報をわかりやすく掲載しています。

#### 担当者から一言

「パパの子育て応援します」のコーナーも拡充しました。ぜひご夫婦で読んでください。

### 《やまなし子育てネット》

子育てをしている時期は、とすると孤立しがちです。このサイトを見て、同じ子育てをしている者同士や地域社会とのつながりを感じ、子育ては自分一人だけでがんばるものではなく、県も市町村もさまざまな団体も一緒になって取り組んでいる、ということを知ってもらおうと開設しています。「見てみたいホームページ」をめざして、4年前にリニューアルし、子育て中のお母さんたちの意見を取り入れました。現在、月平均で約4万件のアクセス(スマートフォン・携帯電話含む)があります。



#### ●やまなし子育てネット

<http://www.yamanashi-kosodate.net/>

#### 担当者から一言

地域ぐるみで子育てを盛り上げ、子育てライフを楽しく、ゆとりあるものにするお手伝いができれば幸いです。

問い合わせ先

県福祉保健部子育て支援課

☎055-223-1456



# 「やまなし子育て応援カード」 を使ってお得な毎日! 地域のお店が 子育てを応援



やまなし子育て応援カード

## 「子育て応援カード」とは?

山梨県は子育て家庭をみんなで応援するため、食事や買い物でサービスが受けられる「やまなし子育て応援カード」を作りました。

利用対象は、県内に住む18歳未満の子ども又は妊婦がいる世帯で、一番下の子どもが満18歳になって最初に迎える3月31日まで有効です。

制度スタート時は、3人以上子どもがいる家庭のみを対象としていましたが、昨年秋から対象を拡大しました。



シンボルマーク



## どこで受け取るの?

お住まいの市町村窓口で受け取ることができます。対象世帯と証明できる書類(保険証や母子手帳など)を確認しますので、忘れずにお持ちください。

## 使えるお店は?

協賛店舗は452店(8月1日現在)。飲食店やスーパーなど業種もさまざまです。各協賛店舗のサービス内容は「やまなし子育てネット」に掲載されていますので、利用前にご確認ください。利用できる店舗はさらに拡大中です。

### 市町村受付窓口・協賛店舗の確認はこちらから

パソコンのホームページから店舗検索ができます

ホームページは **やまなし子育て応援カード** で検索

スマートフォン  
携帯電話の方は  
このQRコードで→





## 協賛店 紹介



### いちやまマート 玉穂店

協賛  
特典

土曜・日曜日に2,000円以上(税別)お買い上げで  
**「MOREカード」のポイント5倍**  
(いちやまマート県内全店舗で実施)

#### 店長の甘利元(あまり・はじめ)さんから

企業として地域貢献は使命です。子育て家庭を応援することで地域の活性化に結びつけたいと思っています。

利用される方は、子どもさんが1人でもOKになってから急増しています。今年6月をみても、土曜日で300人、日曜日で200人近いお客様のご利用があり、去年の3倍近い増加です。サービスカウンターでカードとレシートを提示されますと、ポイントをお付けするのですが、土日はカウンターに列ができるほどです。

ぜひ子育てカードを提示してポイントをためてください。そのためにも、クーポンなど特典いっぱいのMOREカード会員になっていただくことをおすすめします。

#### お客様の声

ポイントがたまるのはうれしいです。土日にまとめ買いをしています。ポイントを貯めて商品券に交換できるので家計が助かります。



### 厳選焼肉「火焰」双葉本店

協賛  
特典

**「上カルビー皿」サービス**  
(県内の5店舗で実施)

#### マネージャーの前原由美(まえはら・ゆみ)さんから

双葉と増穂の店舗では特にファミリー層のお客様が多いこともあって、お子様連れのお客様に気軽にご来店していただけるように努力しています。個室の用意や食べ放題コースが3歳以下は無料、小学生は半額などのサービスもしています。月に1回の来店を2回、3回に増やしていただきたい。こうしたファミリー層のお客様がお気軽にご利用していただけるようにと協賛しました。特典サービスのカルビは、お客様に好評をいただいている厳選した上カルビをご用意しています。

おいしいことはもちろんですが、大切なのは「安心・安全」です。お子様連れで安心して焼肉を楽しんでいただける食材の提供に努めています。

#### お客様の声

メニュー表に「子育てカードを提示してください」と書いてあるので、カードを出しやすいです。個室を優先的に使わせてもらえて、子連れでも気兼ねなく食事ができます。

## 「子育てカード」の担当者より

実際にご利用になられた方からは「子育てを応援しているお店を選んで行くようになった」「食べ盛りの子どもがいるので少しでもサービスは助かる」「子育てを応援してくれている、という姿勢がうれしい」といった声が届いています。今後も多くの子育て家庭にご利用していただけるように、子育てカードの周知、利用拡大に努めていきます。

問い合わせ先

県福祉保健部子育て支援課

☎055-223-1456



# 保育園として 子育て家庭を支援したい

## 和成保育園の放課後児童クラブ

仕事を持っている親にとって心強い味方の放課後児童クラブ。平成27年4月から本格施行予定の「子ども・子育て支援新制度」では、対象年齢の拡大など質・量での拡充が計画されています。社会福祉法人甲西厚生会和成保育園(深沢久江園長)は今年4月、民間としては甲府市内で5番目となる放課後児童クラブ(小規模放課後児童クラブ)を開設しました。「保育園として地域の子育て家庭の支援ができれば」と話す深沢園長に、開設までの経緯や課題などをお聞きしました。



深沢久江園長

### 利用希望者の増加

平成23年頃、最寄りの甲府市立貢川小学校放課後児童クラブの利用希望者増加に伴い、甲府市から開設の依頼がありました。しかし空き教室もなく断り続けていたのですが、「施設整備のための国庫補助金があるのでお願いできませんか」と相談があり、検討して依頼を受けることにしました。また、貢川小学校に在学中の卒園生や、その弟や妹が園にいる家庭も多く、そうした子どもたちと一緒に預かり、保護者の支援もしたいと以前から考えていたのも大きな理由です。

### 家庭的な雰囲気を心掛ける

現在の利用児童数は、小学1年生8人、2年生1人、3年生1人、4年生1人の計11人です。放課後は午後1時30分から午後6時30分、夏休みなどの長期休み中は午前8時から午後6時30分までです。

主な活動は「読み・書き・そろばん」を軸に考えています。4月からスタートしたばかりで試行錯誤しながら、まずは「ただいま」「おかえりなさい」のあいさつをしっかりするなど、家庭的な雰囲気になるように努めています。園に帰ってきたら宿題を済ませ、おやつを食べて、それから職員が本の読み聞かせをしたり、工作などをして家族を待ちます。お迎えの遅い子には、教室のお掃除も手伝ってもらいます。

### 家庭、地域と強い信頼関係

社会福祉法人として、また地域に密着した保育園として地域に貢献できることはとても意義のあることです。保護者も「いままで通っていたところで安心」と信頼して預けてくれます。園としても、乳幼児期だけでなく卒園してからの子どもたちの成長を見るのは楽しみでもあり、やりがいにもなっています。

### 今後の課題

今後も放課後児童クラブの利用者が増えたら、定員数により受け入れが難しくなります。また、新制度では専任職員が必要となりますが、職員の確保はなかなか難しいのが現状です。人件費などの上昇に伴って現状の委託費では運営が苦しくなります。こういった課題を行政とも協議しながら解決していく必要があります。





## 赤ちゃん誕生を祝って プレゼントを持って訪問

上野原市社協「ハッピーバースデー事業」

上野原市社会福祉協議会では、育児をする家庭を地域で支援していこうと6月から「ハッピーバースデー事業」を始めました。

おおむね生後6か月までの乳児がいる家庭を地域の民生委員・児童委員、主任児童委員がプレゼントをもって訪問します。プレゼントは、上野原市社協職員の皆さんによる手作りの「おむつケーキ」と「名前刺繍の入ったよだれかけ」です。一つひとつ、職員の皆さんが思いを込めて作っています。

訪問時には、育児に関する不安や悩みを聞いたり、子育て支援に関するサー



赤ちゃんの誕生を  
地域で祝う



プレゼントを手渡す  
臼井啓子さん(右)  
「子育ての悩みを  
抱え込まないで」

ビス等の情報をわかりやすく伝えたりしています。

プレゼントを届けている民生児童委員の臼井啓子さんは「自分の住む地域のためにみんなで協力したい。子育ての悩みは人に話すことで救われることが多いので抱え込まないでほしい」と言います。保護者の方からは、「皆さんから祝ってもらえて嬉しい。大切に使います」と好評です。

上野原市社協の溝呂木潤さんは、「直接、家庭を訪問して社協や民生児童委員のことを知ってもらうことで、子育てに関する窓口等として社協を活用してほしい。子どものいる家庭と地域をつなぎ、健全な育成環境の確保を図っていききたい」と話してくれました。

地域ぐるみで  
子育て  
応援します!

## 子育ての 悩み聴きます 息抜きにどうぞ!

大月市社協「ろばみみcafe」

大月市社会福祉協議会では、子育て中のお母さんがほっと一息つける場所を提供するため、「ろばみみcafe」を4月から毎月第一火曜日に大月市総合福祉センターで始めました。

「ろばみみcafe」は、傾聴技術を取得したボランティアさんがおいしいコーヒーを入れ、丁寧に話を聴きます。ただ話を聴いてほしい方、愚痴を言いたい方、子育ての息抜きをしたい方など誰もが気軽に訪れることができます。

市内に住む池田有さんは、3年ほど前から高齢者を対象に傾聴ボランティアに取り組んでいます。自身の子育て経験や友人からの要望もあり、高齢者だけでなく子育て世代の母親がストレスを解消するために話せる場所を作りたいと社協へ提案して、「ろばみみcafe」がスタートしました。

「ろばみみcafe」の由来は、物語「王様の耳はロバの耳」からで、本当のことを言える場所という意味が込められています。そしてもう一つ大切に

「ろばみみcafe」を  
提案した池田有さん



いるのは、秘密を守る場所であることです。

池田さんは、「傾聴とは、相手の気持ちにとことん寄り添うこと。決して、自分の価値観を押しついたり、アドバイスや説教をすることはありません」と言います。悩みを丁寧に傾聴し、気持ちに共感することで、その人自身が解決方法を見つけることを大切にしています。

相談に訪れた方からは、「話を聴いてもらえてすっきりした」「来てよかった」などの声が届いています。

大月市社協地域福祉担当の藤本美和子さんは、「地域の住民からこんなことがしたいと、意欲的に働きかけていただいたことにととても感謝している。これをきっかけに幅広い子育て支援につなげていきたい」と話していました。



「おいしいコーヒーもあります。  
気軽に訪ねてきてください」

県社会福祉協議会は、6月5日から8日までの4日間、「いきいき山梨ねんりんピック2014山梨県シルバー作品展・シルバー俳句大会」を甲府・山梨県立図書館 1階イベントスペースで開催しました。



# 山梨県シルバー作品展・

# シルバー俳句大会 作品紹介

いきいき山梨ねんりんピック2014

## 渡辺 柳風 選

梅の香や「仰げば尊し」流れくる

身延町 笠井 義仁 七六歳

読経の夫の背凜と冬座敷

身延町 近藤 葉月 七七歳

野仏の影おく水に蝌蚪生まる

身延町 磯野 幸子 七九歳

父の日やどこか父似の夫と添ひ

韮崎市 宮澤 繁子 六三歳

猫が来て日向ぼつこの車椅子

南アルプス市 上野 テル子 八四歳

## 上田正久日 選

妻の歩につかず離れず彼岸道

西桂町 重田 隆重 八〇歳

読経の夫の背凜と冬座敷

身延町 近藤 葉月 七七歳

生き延びて記録破りの雪を掻く

富士吉田市 萱沼 基司 八七歳

雲の峰老いなほ胸に期するもの

市川三郷町 笠井 彰 七三歳

老の杖妻が見守り初詣

都留市 上野 品司 八〇歳

## 加藤 勝 選

車椅子春泥付けて戻り来ぬ

南アルプス市 阪本 みつ子 七四歳

雪晴の給油している消防車

山梨市 広瀬 寛 八七歳

三月の陽にぬくもれる埜の木

北杜市 浅川 六子 七三歳

庭師去り冬空近くなりにつけり

大月市 畠山 啓子 八二歳

締め直す靴紐白き五月かな

甲府市 望月 友良 七七歳

## シルバー俳句大会 特撰句

(年齢は平成26年6月5日現在の満年齢)







シルバー作品展  
優秀賞



日本画「牡丹」  
進藤 たへ子(85歳)



日本画「ぼたん」  
功刀 喜美子(72歳)



洋画「夢の中で」  
大森 長夫(82歳)



洋画「厳冬の赤岳」  
保坂 昭周(82歳)



彫刻「雲井」  
北村 栄子(72歳)



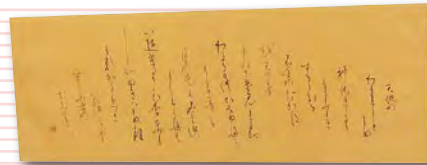
彫刻「能面 瘦男」  
堀内 清道(77歳)



工芸「黄瀬戸釉花器」  
深澤 俊治(74歳)



工芸「釉彩文様花器」  
山田 邦夫(71歳)



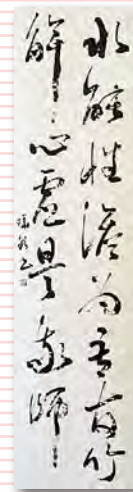
書「万葉集のうた」  
保坂 千鶴子(83歳)



写真「雲海」  
石原 新一(83歳)



写真「彩雲」  
竹内 精一(86歳)



書「我師」  
市川 てる子(80歳)

(敬称略、年齢は平成27年4月1日現在の満年齢)

日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門に、214点の作品が集まりました。

各部門で優秀賞に選ばれた作品12点(各部門2点)は、10月に開催される「ねんりんピック栃木2014」の美術展に県代表作品として出品します。

# 山梨県社会福祉協議会

## 講座・研修会のご案内



### ●介護講座

講座名	内容	定員	開催時間	開催日	受講料
お年寄りに起こりやすい病気の予防と対応	・高齢者に起こりやすい事故、症状への対処方法	30名	10:00～16:00	9/ 4(木)	無料
お年寄りの排泄の問題とそのお世話	・老年期の排泄の特徴 ・排泄介助のポイント	30名	10:00～16:00	9/ 9(火)	無料
認知症サポーター養成講座	・認知症の基礎知識 ・認知症の人への対応の仕方	30名	9:30～12:00	9/18(木)	無料
お年寄りの食事のお世話(3日間)	・老年期の食事の特徴 ・心身の特徴を考慮した献立作り ・飲み込みに障害がある方への調理の工夫	20名	9:00～14:00	9/25(木) 9/26(金) 9/30(火)	1食あたり500円の材料費を徴収します。

お問い合わせ・お申し込み先 介護実習普及センター ☎055-254-8680

### ●福祉施設・事業所職員対象研修会のご案内

研修名	内容	定員	開催時間	開催日	受講料
メンタルヘルス研修	・うつ病の基本的理解や職場のメンタルヘルスに関する講義を通じ健全な職場づくりを図る。	60名	10:00～15:30	11/26(水)	3,000円

お問い合わせ・お申し込み先 福祉人材研修課 ☎055-254-8610



高齢者と障害者の自立のための  
第41回  
国際福祉機器展  
H.C.R.2014  
Int. Home Care & Rehabilitation Exhibition 2014



- 1 15か国・1地域580社より約20,000点の福祉機器を総合展示
- 2 国際シンポジウム「EU諸国の認知症政策の現状と課題

開催内容(予定)

～日本の認知症政策と支援活動の充実に向けて(仮題)～  
世界的な共通課題となった認知症政策について、欧州各国では、国家戦略の策定や認知症サミットの開催などの取り組みを進めています。こうした動向や現地からの実践レポートなどを踏まえ、これからのわが国の対応のあり方を考察します。

【日時】2014年10月2日(木) PM

【会場】東京ビッグサイト 会議棟6階「605-608会議室」

- 3 H.C.R.セミナー ～幅広いテーマでさまざまな参加者に役立つ情報を提供
- 4 H.C.R.特別企画 ～最新機器、障害向け製品、高齢・障害者の旅行グッズを集中展示
- 5 出展社主催プレゼンテーション ～各社製品の特徴の紹介・PRなど

※プログラムは変更されることがあります。  
最新情報と詳細はH.C.R.Web(<http://www.hcr.or.jp>)サイトでご確認ください。

WEBサイト <http://www.hcr.or.jp>

その他、多彩なプログラムを実施。

H.C.R.2014事務局 〒100-8980  
東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル  
一般財団法人 保健福祉広報協会 Tel. 03-3580-3052/Fax. 03-5512-9798

会期 2014年10月1日(水)～3日(金)

開催時間 10:00～17:00

会場 東京国際展示場  
「東京ビッグサイト 東展示ホール」  
(東京・江東区有明)

入場料 無料・登録制(一部のプログラムは有料)



# Goods

福祉用具紹介  
あると便利なグッズたち



## ポータブルトイレ 〈座楽〉アウーネ

価格:26,000円(税別)

お部屋のスペースを配慮したコンパクトサイズ。湾曲した肘掛けはゆったりしたスペースを確保し、拭き取りなどの動作をしやすくします。座ると自然におなかに力がかかる姿勢となり、排泄をうながしやすくなります。肘掛け先端部を従来品より長くし、横から握りやすく、座り直しや立ち上がりしがやすくなっています。

ソフト便座タイプやあたたか便座タイプ、脱臭タイプなど豊富なラインナップとなっています。



### CheckPoint

介護保険の特定福祉用具・特定介護予防福祉用具購入の対象品です。年間10万円を上限として購入費用の9割が支給(還付)されます。



## 災害用簡易組立トイレ ドント・コイ MH型 (洋式・身障者対応)

価格:275,000円(税別)

便槽の前後左右底面までアルミ製保護箱でカバーしているので、便槽の破損を防ぎ、長期間衛生的に使用できます。また、メンテナンス無しで30日程度の連続使用が可能です。後片付けが簡単。

テントの入口上部と左右下部をメッシュにし、通気性をよくし気持ちよく使えます。プライバシーを考慮し、照明を点灯してもシルエットが映らない素材を採用。車いす使用者や介助者が動きやすい広い空間を確保。業界初のノブ式本締錠を採用。誤って使用中に扉を開けられてしまう心配がなく安心して利用できます。



### CheckPoint

災害時など避難所で、仮設トイレとして避難者が使用します。車椅子の方も使用しやすいよう個室は、車椅子が自転車の余裕の広さがあります。また、介助者が移乗の手助けをしやすいよう便座の位置を中心からずらして配置した、やさしい構造になっています。



# いきいき山梨ねんりんピック2014を開催します

**日時** 平成26年9月27日(土)9:00~15:00

**場所** 小瀬スポーツ公園ほか

今年で22回目を迎える“ねんりんピック”は、高齢者に適したスポーツや文化活動などを通じて健康を保ち、参加者同士の交流を行い、誰もが健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、さまざまなイベントを用意しています。

高齢者だけでなく、子どもから大人まで楽しめる内容になっていますのでご家族でご参加ください。

皆さんのお越しをお待ちしています

## 主な内容

- スポーツの広場…テニス、剣道、太極拳、輪投げ、ペタンクなど
- まつりの広場…健康・福祉フェア、ふれあい広場、シルバーライフ情報提供コーナーなど
- 趣味の広場…囲碁、将棋、フォークダンスなど



## 貸し出し 図書紹介

- 著者 出野 智子
- 発行者 林 諄
- 発行所 株式会社日本医療企画  
〒101-0033  
東京都千代田区  
神田岩本町4-14  
神田平成ビル  
TEL 03-3256-2861
- ホームページ <http://www.jmp.co.jp/>



## 『リハビリテーションの考え方をとりいれた介助のしかた』

介護職の方であっても、在宅で介助なさっている方でも、介助が大変な肉体労働であることは違いありません。力任せの介助を続けていると、介助者にも健康障害(腰痛)が引き起こり、さらに介助される側も苦痛を感じてしまいます。

この『リハビリテーションの考え方をとりいれた介助のしかた』では、介助される側の機能回復を促し、本人の意欲を引き出すことを目的とし、ボイタ法の正常運動発達学や運動学を生かして、最小限の力で介助ができるように紹介されています。

この本は介護実習普及センターで貸し出しを行っています。このほかにも介護・看護・福祉についての本(293冊)やビデオ・DVD(195本)を貸し出してあります。詳しくは介護実習普及センターにお問い合わせください。

☎055-245-8680

## 広報誌「やまなしの福祉」をパソコンやタブレットで閲覧

広報誌「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版の閲覧ができるほか、電子ブックでもご覧になれます。

タブレット・スマートフォンでの電子ブックのご利用の場合は、下記のQRコードでアクセスしてアプリ(無料)をダウンロードしてください。指定のID(毎号変更)を入力すると閲覧できます。

9月号は以下の通りです。

※パスワードは必要ありません

ホームページ  
<http://www.y-fukushi.or.jp>

9月号のID **yfukushi1609**

Android用



iOS用

